

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスWAKUWAKU		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日		～ 2024年 11月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2024年 11月 5日		～ 2024年 11月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	さまざまな素材を使用して創作意欲を向上を期待するとともに、「できた」と思える経験を積み、5領域における、運動・感覚、認知・行動を意識し、環境を整え、各々の発達レベルに合った工作活動を行い、指先機能、感覚機能の向上、考える力の発達を期待し、興味の幅を広げていけるように支援を行なっている	自ら「やってみたい」と思い、自主的に取り組めるよう、環境を整え各々の好きなキャラクターや、色、形、素材を用意するようにしている	更に情報収集を行い、各々の発達のレベルに合わせた工作に取り組めるようにしていく
2	5領域における言語・コミュニケーション、人間関係・社会性を意識し、他事業所や、地域等の繋がりを大切にしている	地域交流や他事業所との合同イベントを開催し、個々が楽しみ、活躍できる場の提供に努めている。また、イベント参加の際は、事前に決まりやルールを児童と確認し合いながら取り組んでいるが、全員が理解できているか不明な点があるので、必要に応じて個別に対応している	地域行事のリサーチを行い、楽しんで参加できる環境を整える
3	5領域における健康・生活、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性を意識を意識し、当事業所は児童発達支援事業と放課後等デイサービス事業の多機能型であるため、年上児童への憧れや模倣から、遊びを通じて他者との関わり方、コミュニケーション力、社会性、協調性等が日ごろの生活から自然と身につく機会が多い	年上児童との関わりの際は、職員はなるべく見守るようにし、必要に応じて介入していくようにしている	経験のある年上児童が、工作を含め、さまざまな活動時に教えることができる環境を整えることで、相互の成長に繋がるようにしたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	平日の利用時間によっては、時間やスペースが限られているため、児童が思い切り身体を動かして活動することが出来ない	室外で思い切り身体を動かすには活動スペースが限られている	さまざまな条件が必要になるが、近くの公園や広場で活動する等の工夫が必要となる
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもデイサービスWAKUWAKU				公表日	2024年 12月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5				
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			スペースを簡易的に区切ることはできるが、個別の部屋がいつでも用意できる環境は難しい	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5				
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			貴重なご意見を日々の支援に反映していく	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		会議では自由な発言ができるような環境を心掛けている		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		事業所に第3者委員を招き、身体拘束・虐待防止等の会議を予定している		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		職員研修（会議予定表）の年間スケジュールを作成している		
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	2	今後公表予定にしている		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5				
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5				
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5				
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5				

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			更に、お子様の興味関心の幅が広がるような活動を工夫していく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		集団での活動が基本となるが、必要に応じて、他事業所と足並みを揃え、個別の支援を行なっている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援前に活動計画予定表の確認を行なっている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		医療との連携は数居が高い面があり、今後の課題となる	相談支援専門員を通じ、医療との連携を可能にしている
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		他機関に受け入れてもらえない場合は難しい面有	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	他事業所の児童発達管理責任者が集う研修会では法改正後の確認や多職種連携等を年間を通して参加し情報共有図ることが出来た	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5	コロナ禍からの影響もあり、全体的な保護者会は行なっておらず、個別での対応を続けている	保護者様の希望を考慮し、保護者ときょうだいの交流会を検討している
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報研修(年2回)を行なっている	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	駐車場の問題もあり、事業所に招待するよりも地域行事に参加させてもらうことの方が多かった。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアルに沿って年間スケジュールを元に訓練を行なっている	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		風水害訓練（年1回）消防訓練（年2回）を行なっている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		個別にアレルギー票にて確認できるように管理している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		翌月の安全計画の策定を月1回職員研修にて決定している	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		委員会、会議にてヒヤリハットの情報共有を行なっている	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止研修（年2回）身体拘束の適正化委員会（年2回）開催している		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5				